



夢と好奇心

校長 町田 大樹

謹んで新年のお喜びを申し上げます。新型コロナウイルスの収束が未だに見えず、年末年始はステイホームが呼びかけられ、ここ数日で緊急事態宣言の発令も検討されることになりました。学校は本日よりスタートしますが、緊張感をもちながら、子どもの安全・安心を優先して教育活動を進めていきます。

さて、少し前の話になりますが、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の名誉教授であり、はまぎんこども宇宙科学館館長でもある的川泰宣さんの講演を聞く機会に恵まれました。的川さんは小学校5年生の時に、一見同じように光って見える夜空の星々が、何光年という距離の違いによって、地球に光が届くまでの年数に違いがあることに大変興味をもったそうです。小学校5年生の時に星空を見上げながら、「数十億光年の奥行にどこまでも分け入りたい」とまで思った的川さんの感受性の強さに驚かされました。そして、大人が思っている以上のことを子どもたちは感じることができるというメッセージを受け取ったように思います。



昨年末の12月に、6年生は日光への修学旅行、4年生も貸し切りバスを使用して、宿泊体験学習に代わる校外学習を実施しました。感染症が拡大する中、バスでの静かな過ごし方やこまめな消毒、集団行動の制限等、様々な制約も設けなければならず、子どもたちの思いや願いにどれだけ寄り添えるか心配する面もありました。しかし、子どもたちの感性は大人の想像を超え、その時その時の笑顔や目の輝きからは活動を楽しみ、喜びを感じているのが伝わってきました。宿泊行事、校外学習は自然の豊かさや仕組みを教科書からではなく、肌で実感することのできる機会です。心を揺さぶられたり、感動したりする経験は、子どもの好奇心をさらに掻き立てます。また、友と共に過ごす時間は、思いやりや温かな心情を育むことにもつながります。きっと、子どもたちはその時にしか得られない貴重なものを受け止めてくれたことと思います。



学校の水仙(別名：雪中花)が満開

「人の心に火をつけるのは、いつも『夢と好奇心』」と的川さんは言います。制限の続く年始となりましたが、安全対策をしっかりと講じながら、子どもの夢と好奇心を少しでも育ていけるように努めていきたいと思います。こうして、日頃の教育活動が実施できるのも、保護者、並びに地域の皆様のご理解とご協力のおかげと感謝いたします。令和3年も、どうぞよろしくお願いいたします。